研究課題　文禄の役における朝鮮王子関連文書の調査・研究・目録化

研究経費　五六万五〇五二円（前年度よりの繰越分）

研究組織

　研究代表者　　　川西裕也（新潟大学）

　所内共同研究者　金子拓

　所外共同研究者　木村拓（鹿児島国際大学）・久野哲矢（佐賀県文化スポーツ交流局文化課）

研究の概要

（１）課題の概要

　文禄の役の最中の一五九二年七月、朝鮮国王・宣祖の王子である臨海君・順和君が日本軍によって捕縛された。その後、二人の朝鮮王子は、約一年間にわたって日本軍の捕虜となっていたが、翌年六月、一時的な講和の成立にともなって解放された。  
 　この二人の朝鮮王子のエピソードについては、文禄の役における重大事として広く知られている。しかし、彼らが捕虜となっている間に日本の武将や僧へ送った文書（書簡・詩文など）が日本各地に多数現存することについては、これまでほとんど注目されてこなかった。その結果、二人の朝鮮王子の動向については不明な点がきわめて多い。  
 　本研究では、こうした研究現況を踏まえ、日本に現存する二人の朝鮮王子文書を網羅的に調査・研究・目録化することを目的とする。原本が確認できるものについては実見調査を行い、各文書の詳細なデータを集積する。また、各文書の発給年月日と様式・内容を検討した上で、編年目録の作成と公開を行う。

（２）研究の成果

　二〇一九年度以来続けてきた本共同研究により、日本に現存する朝鮮王子関連文書を網羅的に実見調査することができた。調査を実施した史料所蔵機関は次のとおりである。公益財団法人鍋島報效会（佐賀）、佐賀県立名護屋城博物館史料編纂所（佐賀）、泰長院（佐賀）、本圀寺（京都）、本妙寺（熊本）、八代市立博物館未来の森ミュージアム（熊本）。この調査を通じて、学界未紹介の重要な文書が複数確認されたことは大きな成果であった。現在、蒐集した文書データの整理および分析の最終作業を行っている。  
　また本年度には、オンライン上で関連研究会（壬辰戦争研究会）を八回にわたって開催した。日本国内はもとより国外（韓国・中国・カナダ・スペインなど）から多くの参加者があり、非常に活発な討議が行われた。新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって国内外の移動が強く制限されたが、どこからでも参加が容易なオンライン研究会の開催が定着したことは不幸中の幸いであったといえる。  
　本共同研究の成果は二〇二二年度中に論文集として刊行することを予定している。